

令和2年度 能美市立辰口中学校 学校評価 最終評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評価
1	組織的な学校運営	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働の中で、教員の資質能力の向上を図る。	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	校内運営推進会議を機能させ、協議を重ねることで、主任層が中心ビジョンの具現化を理解し、組織運営を図ることができた。若手を対象とした研修や校務分掌の担当を適切に割り振ることで資質能力の向上を図り、活躍の場を設けることで実践力を高め、組織力の向上を図ることができた。	A
		②「気づき」を大切に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し業務の改善・効率化を図る。	＜努力指標＞ 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定時退校している。	＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	何事にも改善が図られるよう「気づき」を言葉にし伝えることで、周囲が考え、反応し改善策が取り込まれる場面が多くみられた。 勤務時間の短縮を含め、効率よく業務を行う点においてはまだ改善の必要性がある。業務の明確化や平準化を図る中で改善を図っていく。	B
		③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	教育相談の会を毎週設定し、情報共有を行いながら、組織的対応に努めている。特に、休校空けに起こると予測される問題に対して、早期対応を意識して取り組むことができた。QUアンケートや生活アンケートなどの結果も有効活用し、生徒一人一人の気持ちの変化を細かく見取っていくことができるようにする。	A
2	確かな学力の育成(知)	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させて、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、授業改善を図る。	＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート5＞ ＜生徒アンケート19＞ 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	総合的な学習の時間での課題研究では、各教科の学びを生かして、教科横断的な探究学習を実践することができた。校内研修会等を通じて、教師が生徒の学びを見取る力を向上させていくことで、生徒の思考にめづらきに寄り添った授業づくりを実現していきたい。	B
		②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずほめ、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	＜教職員アンケート6＞ ＜生徒アンケート17＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につく、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	授業を通じて、生徒が「わかった・できた」と実感できている割合は高まった。今後は、本時レベルの工夫だけにとどまらず、単元の問いを設定するなど、単元レベルでの授業改善も推進していく。	A
		③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	＜成果指標＞ 学力向上ロードマップ(※)を活用し、様々な面から思考力・判断力・表現力の向上に努めている。	＜教職員アンケート7＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。	定期テストの質的向上の取り組みを通じて、学力調査問題を授業改善や学習評価に生かすしくみを構築することができた。また、検証可能な数値目標を設定したことで、より具体的な取り組みにすることができた。来年度以降も、教科部会での定常的な取り組みとして位置付け、学力向上に効果的につなげていきたい。	A
3	豊かな心の育成(徳)	①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	＜満足度指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート9＞ ＜生徒アンケート28＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	アンケートをHyper-QUにしたことで、より詳細に生徒一人一人の気持ちの動きを読みとり、学級経営に生かすことができた。来年度は学年会単位での結果の分析のしかたも共有し、さらなる効果的活用につなげる。シェアリングタイムも効果的に運用していくことで、生徒の居場所づくりに引き続き取り組んでいく。	A
		②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	＜生徒アンケート25＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	コロナ禍という制約の中で、「エコキャップ週間」の取り組みを行った。生徒会執行部が中心となって企画し、すべての生徒会委員会が連携して具体的な活動を進めていくことができた。事前に設定した目標を達成することができ、達成感や自己有用感を高めることにつながった。	B
4	健やかな心身の育成(体)	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	週1回行っている、教育相談の会を中心に、学校全体で組織的に取り組むことができた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部の関係機関とも連携を図り、対応することができた。	B
		②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート8,9＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート22＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	研究部ともタイアップして、生徒アンケートを年間2回実施した。アンケートでは起床時間、就寝時間、家庭学習時間を調査し、全校集会でフィードバックした。また、家庭と連携した取り組みも行うことで、一定の成果を得ることができた。来年度に向けて、取り組みの時期や方法を精査し、学力向上プランにも組みこむなどして、より効果的に運用できるようにする。	C
		③体育的活動・部活動を中心に体力を高めるとともに、ねばり強い精神力及び親和的な人間関係を育む。	＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通じ、体力を向上させ親和的な人間関係を育み、粘り強く努力する心づくりに努めている。	＜教職員アンケート10＞ 生徒が粘り強く努力する姿は向上しているか。	新型コロナウイルスや熊の影響で、運動会や部活動等の体育的活動が大きな制約を受ける形となった。ともすると、目標や目的意識が希薄になり、活動が停滞する場面も見られた。来年度は、日常の活動の中においても短いスパンで目標設定を行い、スモールステップで達成感や成就感を積み上げることで、粘り強さの育成につなげていきたい。	B
5	家庭や地域との連携	①地域の特徴を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	＜教職員アンケート12＞ キャリア教育の視点を持ち、地域を生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート13＞ 地域とのつながりを考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。	地域リソースを効果的に活用することで、課題研究を中心とした生徒の探究活動の質を向上させることができる。コロナ禍で、様々な制約はあるものの、できる限り生徒が本物にふれる機会を提供できるようカリキュラム等を工夫していく。また、「キャリア教育」をどのようにとらえるかについて、教職員間で共通理解する機会も設定していく。	A
		②学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート10＞ 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	学校運営協議会が設置されたことで職業講話や自然災害避難訓練時の見守りなど、地域の協力を得る場面が多くみられた。 感染症対策で、授業参観等、学校の様子を直接保護者が見る機会が少なく、肯定的な回答が少なくなっていると考えられる。ホームページの更新など生徒の様子が伝わる情報発信を細目に行う。	B